

若手研究者コラムリレー

林田 敏裕（はやしだ としひろ）



プロフィール

東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 助教

日本体育学会の専門領域: 体育経営管理

E-mail: hayashida@toyo.jp

福岡県生まれ(とんこつラーメン大好きです)

- ・2007～ 福岡教育大学 生涯スポーツ芸術課程入学
→男子バレーボール部に所属(遅刻したら坊主が強いられるThe体育会系?)
- ・2012～ 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻 入学
→体育・スポーツ経営学を専門に運動部の研究に着手
- ・2015～ 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻 入学
→研究室にて衣食住をするような生活を謳歌
- ・2020～ 東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 助教(現職)

【最近の趣味】

・スキー、ドラム、トランポリン、オープン料理

【最近のヒット本】

・自発的隷従論

・事実なぜ人の意見を変えられないのか

オンラインゼミの一幕(左上が私です)



スキー練習中です
(一緒にスキーしてくれ
る方募集中)

わたしの研究

子どもにとってよりよいスポーツ環境はどうすれば構築できるのか？

みなさん、はじめまして！林田です。私の研究は主に以下2つの軸から取り組んでいます。

①子どもにとってよりよいスポーツ環境とは一体どういうものか？

子どもの頃にスポーツをすることは、協調性やライフスキルの形成、さらには生涯スポーツに繋がることが期待されています。みなさんの中にも、ご自身に子どもがいれば、子どもにスポーツをさせたいという考えを持っている方も多いと思います。しかし、現状のスポーツ環境は本当にベストだといえるのでしょうか。私が行った調査では、小学校から大学の各学校段階で複数のスポーツをすることが、成人期のスポーツ実施にポジティブな影響を与えることが示唆されています。ですが、中学校や高校で運動部などに所属しながら複数のスポーツ種目を同時期に行った人は極めて稀だと思います。生涯スポーツ社会を目指すことが、スポーツ政策の本丸だと思うのですが、このように、子どもにとってよりよいスポーツ環境とは何かを経験的なデータに基づき検討していくことで、豊かなスポーツ文化の発展に寄与できればと考えています。

②よりよいスポーツ環境の構築にはどのような条件や過程が必要か？

日本において子どもの頃にスポーツをする場といえば、運動部のことがすぐに思い浮かぶのではないのでしょうか。ただし、最近では、運動部を地域に移行するという動きもあるように、子どものスポーツ環境は激動の時代を迎えています。そうした社会状況だからこそ、運動部を代表とする子どものスポーツ環境をより良い方向に変革するための方法論が求められていると思います。そのため、私は複数のスポーツをすることを活動内容とする運動部を創部した学校などに調査を行い、よりよいスポーツ環境を構築するためにスポーツ組織が何をどのようにマネジメントする必要があるのかを検討しています。

わたしの最近の論文

林田敏裕・清水紀宏.運動部活動をめぐるイノベーションの採用過程:X高等学校における総合運動部を事例として. 体育・スポーツ経営学研究 32: 49-67, 2019.

「なんでも帳」、…なのですが、なんでも書けるわけではありません(泣)

「なんでも帳」の欄がありましたので、東京オリ・パラ大会組織委員会における女性蔑視発言を契機とする一連の騒動をもとに考えたことを「自由」に書かせていただこうと思っていました。しかし、この問題について何かしら批判的な発言をすることは簡単なのですが、なぜこのようなことが起こったのかを考えたとき、ふとこの問題に対して「自由」に書くことを恐れている自分がいました。

その理由は、あるコミュニティで当然視していることを口に出したら、別のコミュニティに属する人たちからすれば不当な差別・人権侵害として映り得ることを痛烈な経験として知ったからです。しかも、それがネットを通じて全世界の人たちにより検証され、時には国際社会を巻き込んだ社会的制裁に及ぶのです。もし、自分の「自由」な発言が他のコミュニティにより人権侵害だと捉えられたら、と考えると「自由」に書くことを控え、口を閉じておくことが最善の方策かとさえ私は思っています。

ただ、「このようなことは自分には関係がない」と多くの人は考えがちです。しかし、無意識に形成した偏見に自身で気づくことは困難を極めます。しかも、心理学の一説では、差別的な行動や偏見に基づく思考は人間が環境適応をするために獲得した心理的機能ともなっています。つまり、人間誰もが差別的な行動や偏見に基づく思考をしてしまう可能性があるのです。

今回の騒動でわかったように、現代は多様性を受け入れることを是とする価値観が覆っています。私もこれに賛同する一人です。しかし、現状の社会は多くの差別があります。この現状を打開するには、先に示したような人間理解に基づく「自由」な対話こそ重要だと思います。若手の会がそうした知性的な場であることを期待します。

○次回のコラムリレーは日本体育大学の「田中良」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

